



創立八十周年・定時制七十周年 並びに校舎改築落成記念事業協 賛会について



湖陵同窓会々々長 長内 宏
 (記念事業協賛会々々長)



学校長 森 正徳

「器」に勝る「実力」を

待望久しかった母校新校舎が愈
 愈完成を間近に控えている。緑
 に囲まれた敷地、春採湖と太平洋
 のきらめきを南に、阿寒連峰を北
 に望む文字通り絶好の場所は、鈞
 路の文教地区の中心として「湖陵」
 を位置づけるにふさわしい。

時あたかも八十年になんなんと
 する鈞中、湖陵の歴史を共に祝う
 べく「創立八十周年、定時制七十
 周年並びに校舎改築落成記念事業
 協賛会」が計画されたのは当然の
 事である。その経緯に就いては紙
 面の都合上省略する事とし、協賛
 事業の概要を御紹介申し上げ御理
 解、御協力を賜りたい。

協賛事業計画
 一、記念行事
 (ロ)記念式典並びに祝賀会
 (子)定 平成三年九月)
 (ク)その他の記念行事

二、記念事業
 (イ)学校教育施設、設備の援助
 部室整備、体育文化部活
 動補助、体育館設備、楽
 器補充、視聴覚室設備、

多目的教室設備など
 (ロ)八十周年記念誌等の発行
 (ハ)その他

三、予算規模(予定目標)
 総額 六千五百万円
 寄付 四千二百万円
 積立 二千四百万円

四、募金活動
 実行委員会(委員長 妹尾継
 男 P.T.A 会長(湖四期)を中
 心に一般企業、商社などから
 募金活動を開始する。更に同
 窓生一般にも広く御協力を願
 う予定)

環境は人の成長と気質形成に深
 く係わり合うと共に、人は又環境
 を変え得る能力を有する。とは申
 せ恵まれた環境の中で最善の教育
 を願うは親の心であり、近代化の
 中で更なる湖陵の発展を望まんと
 するは我ら同窓生の永遠の夢であ
 る。

母校愛に燃える各位の熱烈なる
 御支援を心よりお願い申し上げる
 次第であります。

春採湖を一望出来る緑ヶ岡の高
 台に、新校舎の竣工も間近になつ
 て来ました。時計台をいただく全
 容も、市内の各所より遠望され、
 鈞路市の文化の中枢を担う施設と
 しての期待が各方面より寄せられ
 ております。道内有数の施設を誇
 る新校舎は、格技場と併せて予定
 通り、来年八月に完成します。プ
 ールは少し遅れて十二月末の完成
 を予定していますが、九月二十日
 には現校舎との別れ式を挙行、
 二十一、二十二日に移転を完了す
 ることになっております。長い年月
 無数の若者の思い出に生きてきた
 現校舎との別れは愛惜一汐のもの
 があります。九月二十日には、全
 校生徒で、心をこめて現校舎に感
 謝を奉げ惜別したいと思っております。

りお願い致します。

去る四月二十八日には東京湖陵
 会が発足し、長内会長、罇淵市長
 らと共に私も参会させていただき
 ました。三百数十名が集う盛会で
 漲る母校愛、後輩に対する期待の
 大きさ等がひしひしと肌で感じら
 れ、母校を誇りする自分の責務
 の重さを改めて感じ、身のひきし
 まる思いが致しました。

平成元年度をふりかえってみま
 すと、幸い、部活動は例年にな
 い好成绩をおさめ、進学も、これに
 劣らぬ好成绩で、国公立大学の現
 役合格者数が全道六位という大躍
 進ぶりを示し、校内のよりあがり
 も一段と大きいところであります。
 今年度も高体連の優勝数が男女
 十一部門という記録的な好成绩で
 「湖陵ここにあり」の活気に溢れ
 ています。

間近に迫った校舎移転を無事終
 了させ、最善の環境造りにつとめ
 る一方、「器」に勝る「実力」をつ
 け、まさに新湖陵に魂をふきこむ
 ことこそ、私に課せられた責務と
 感じ全力を傾注していく所存です。

校舎改築移転にむけての協賛会
 活動も軌道にのり、長内宏同窓会
 長自ら協賛会長に就任され、免稅
 許可がおり次第寄付集めが開始さ
 れます。母校を支えて下さる皆様
 のご協力なくして何一つ実現でき
 ぬことばかりです。ご支援を心よ

湖陵高校同窓会各地支部結成 東京支部誕生！

湖陵同窓会東京支部設立総会



「日出づる国の北陸に・」東京は皇居のそば、半蔵門のダイヤモンドホテルの一角から、湖陵校歌の大合唱がもれて来ました。去る四月二十八日午後五時、来賓十名、新卒者八名を含む三百十五人のかつての湖陵健男児、健女児が集い、湖陵同窓会東京支部を結成しました。

今、関東圏には三千名超える湖陵同窓生がいるといわれています。昨年の五月、釧中七期の永井保さん（藤沢在住）、同八期の河村功さん（東京、杉並在住）の長老

が音頭をとり始めてちょうど一年名簿掲載数二五七六名で一応、組織化されました。

来賓の同窓会々々長、長内宏さん、釧路市長、鰐淵俊之さん、更には現湖陵高校校長、森正徳さん（いづれも同窓生）のお祝いの言葉に続いて、札幌湖陵会々々長、西條正人さんの心温まる祝電が披露されました。

会則決定後の役員選出では、次の方々がそれぞれ就任されました。同窓支部会長 河村功（釧一）副会長 栗村英二（湖二）、富山秋美（湖二）、山口智子（湖三）、幹事長 澤山右尚（湖四）、会計監事 小沢良昌（湖八）、佐藤秀明（湖九）の皆さんです。

設立総会終了後、懇親会に移りました。冒頭、釧中一期、佐々木一雄さん（横浜在住、九四歳、高齢のため欠席）からの切々と母校を想う祝辞が代読されました。

釧路からの仲間が持参した郷土の銘酒、福司の鏡開きは釧中二期原清剛さん（東京練馬、九二歳）の発声、会は一気に盛り上がり幹事の予想を超える参加者で会場はあふれるばかりの熱気に包まれました。

二時間の予定も短く感ずるうちに、来年の再会を約して散会、昔

のグループ、幼なじみは、初夏の香りする東京の街に、二次会へと繰り出してゆきました。

結成に際して釧路湖陵会本部の皆様方のご指導、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。その後の役員会で次の方々が決まりました。

名誉会長 佐々木一雄（釧一）顧問 永井保（釧七）、竹林信夫



（釧一〇）、波岡正治（釧十三）、梅津正隆（釧十五）、藤森正男（釧十五）鈴木正雄（釧十七）、渡辺賢二（釧二四）、小松鍊平（釧

湖陵同窓会東京支部設立総会



二九）、佐川和美（釧三〇）、常任幹事 工藤桂造（湖二）、深村誠（湖三）、吉田為雄（湖四）、小滝明子（湖四）、舟崎明雄（湖五）、津坂八重子（湖五）、坂本悟哉（湖五）、牧田容子（湖七）、山田康評（湖七）、渡辺比佐雄（湖八）、近藤剛輝（湖一〇）、菊地秀哉（湖一二）、杉村定明（湖一三）、岩戸ひろ子（湖一四）、石山卓磨（湖一七）、佐藤利弘（湖一八）、浜田江匡（湖一九）諏訪幹雄（湖二三）、筒淵剛史（湖二五）、平井淳司（湖二七）以上の皆さんです



優秀な仲間が “塊”のように

湖陵十七期 平野 清次郎

昭和三十七年に入学した十七期生は、多士済々、エネルギーが早くで早熟で、優秀な仲間たちがあちこちにかたまりのようにいたという印象は、卒業して二十五年たった今も変わりません。

「団塊の世代」といわれる十七期生は、生徒会長の五本孝幸君を中心に生徒会活動が活発で、勉学にスポーツに、文化にと青春を燃焼させていました。また、社会が大きく流動し、国家を、社会をどうするかという状況の中にもあった時代でした。

私は、成績のあがらない口実に合唱部（当時は声楽部）に属し、圧倒的に多い女性クラブ員に囲まれ、堀口大学の「月光とピエロ」などを歌いながら、NHKコンクールだ、合同音楽祭だと結局三年生の秋まで付き合っていました。

幣舞橋や北大通を下駄でカラコンとさせながら将来を考えたこと、切嗟琢磨して勉強したわり

には仲々上がらない点数、うさぎ狩りで冬の大葉毛原野を走りまわったこと、四国の昆比羅まで行った修学旅行などがなつかしく思い出されます。

昨年八月には、十七期が同窓会の幹事にあたり、同期生九十名が全国から集まりました。

多少、老けはしたものの、意気盛んな湖陵健児（女）が記念写真に納まらないほど集まり、学び舎を共にしながらもそれぞれの道をゆく同期の仲間の今後の活躍を願う交流が夜遅くまで続いたのでした。

わが青春は

入学した年に開校六十周年に巡り合うことができ、さらに今年は八十周年を迎えるというので、卒業してもう二十年近くもたつことに驚いています。

湖陵とのつながりでは、我が第二十七期三年H組はほぼ毎年一月二日に東京からの帰省組を待つてクラス会を行っています。時には夫婦の参加と、毎回幹事の連絡のおかげで、回数や集まりの良さは同期では一番ではないかと自負しています。会うと「あの時は誰が好きだったか」など、すぐに学生時代の話題になるから不思議です。

部活動では器楽部に所属していたため、現在も器楽部広報「OBに架ける橋」が届きます。私が現役時代に始まったこの通信と夏の定期演奏会が、今も続いていることをうれしく思っています。現在

部活動では器楽部に所属していたため、現在も器楽部広報「OBに架ける橋」が届きます。私が現役時代に始まったこの通信と夏の定期演奏会が、今も続いていることをうれしく思っています。現在



湖陵との つながり

湖陵二十七期 村山 恵子
(旧姓 本間)

は部員も多くなり、さらに楽器もそろって技術のレベルアップも著しい器楽部ですが、私にとってはあの楽器も時間も十分なものとはいえない中で、三年間全道大会出場は貴重な経験と共に思い出深いものとして残っています。

また同窓生として、平成元年度に二十七期生当番で初めて同窓会に参加する機会を得ることができました。久しぶりに会う同期、そして各界で活躍されている諸先輩の方々との出会いを通して、湖陵の同窓会の結束力と母校への誇りと思いの強さを改めて感じました。

また幹事の七期、十七期の方のまともには感心すると共に、再び幹事としてお手伝いできる時に、先輩方のようにできるのか心配ですが、十年後の二十七期生に期待していただけだと思います。それまで、もつと経験をつまなければなりません。同窓生のみさんどうぞ二十七期生への御指導をお願い致します。

部活動では器楽部に所属していたため、現在も器楽部広報「OBに架ける橋」が届きます。私が現役時代に始まったこの通信と夏の定期演奏会が、今も続いていることをうれしく思っています。現在



知性と工夫で勝負する情報集団

銚路綜合印刷株式会社

〒066 銚路市白金町18の2 TEL 0154-23-9201 FAX 0154-23-9206

青春譜・湖陵ヶ丘

《22》



釧中32期 奥田達也

応援団の復活

湖陵高の校舎が今年秋に移転する。釧中生三十三回、湖陵高生四十二回がすでに集立っていた。

継の青春歌

歌い合える応援歌

ての誇りをもって

思い出を一杯にもって卒業した
釧中健児・湖陵高生の校舎は今、
消え去っていく。

「さようなら会」で名残りを惜しむ。その集いが開かれんとする。

各人各様に、思い出の形は違っても、かもしれない。嬉しかったこと、

楽しかったこと。いや屈辱感に打ちひしがれたり、悲しかったこと

の方が、より鮮明であるかもしれない。

良き友を得たり、よき伴侶をえた者もあろう。

人生の一番感受性の強い、多感な青春が湖陵高時代なのだから。

そのなかで先輩後輩らが一貫して共通に語り合えるのは応援団で

一緒に歌い合った応援歌の数々である。

平成三年の湖陵高校創立八十周年をひかえて、釧中六期生から歌

い始めた応援歌ナンバーワン。湖陵に長し。以下壮行歌までの九歌

は、いままでもこれからも湖陵高生の誇りをもって歌いつがれる。

第二次世界大戦中、三年間だけ勤労作業へ駆り出され、また戦時

中の非常時として応援団が止絶えた。

戦後、すぐに運動部が練習を始めた。陸上競技部は昭和二十一年

に剣道部の先輩であり、ストのとりなしをした静養中の名倉滉をコ

ーチに招へいして森輝夫、大獄英孝、雲津松一、三宮久蔵、先崎学、

尾崎義男ら釧中三十、三十一回生らがスリ切れたスパイク、または

ハダシで走り、飛んだ。百回十二秒台で当時の全道ではトップクラ

スの実力。全道大会には馬鈴薯を持参で遠征をした。

二十一年の市内駅伝には、大平洋炭砒など強豪を相手にして優勝

をとげ、釧中健児の健在を示した。浴道で応援する釧中生の感激に

涙するのむべかなの場面が各所で展開したのである。

同年に戦後初の全道中学校体育大会が開かれ、釧中籠球部は準決勝

勝まで進出した。人見明夫、岩船康典、西潟善郎、高杉秀三、松島

良治に三十二回生の小黒章司、山本羊二、野田修平らがこのときの

出場選手である。

こうした運動部の活躍から釧中応援団の結成がうながされた。

三十回生が一年生の昭和十七年で、応援団活動は中止している。

三年間の空白、それが二十一年

によってかろうじて引き継がれたの

であった。もしこの回生なくば、

はたして応援団が、応援歌がうまく継承されていたか、と考えると

き、薄水を踏む思いを禁じ得ない。

釧中二十六回生の渡辺勘一、白瀬司郎らに最下級生として鍛えら

れたこの回生は、二十一年に最上級生として、全校の下級生を指導

することになったのである。

壮行歌から応援歌のナンバー八までは、十七年の一年生で音楽部

に入っていた野上正敏が、オタマジャクシにかわり数字で採譜した

音符をもっていった。それを音楽部員が練習する。歌詞は全生徒がお

互いに小冊子に書き写して昼休み、放課後に猛練習をする。

拍手の振り付けは、池ヶ谷栄一が四年前の記憶をたどり、殆ど独

創的といえる形で器用にまとめる。

屋内体育館の演壇の卓上へ上がって、先生に叱られる失敗もあつ

た。勢い余っての行為は、不馴れに加え、かつて鍛えられた軍国時

代のなごりであり、気負いであつたろう。

佐野賢治団長、森川清男副団長以下リーダーは大張り切りで、こ

のさいとばかりに下級生を怒鳴りつけ、制裁を加えた。リーダーの

命令は絶対服従の大義名分が、民主化の叫ばれはじめた二十一年に

あたたかなふれあい

セオ

太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する

セオチェーン

妹尾商店
新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア
新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア
愛国西3丁目 ☎36-3399

白樺ストア
白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア
昭和北1丁目 ☎51-8853

さつぽろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間/AM11:00~PM9:00

承され譜採

先輩後輩がいつまでも 釧中・湖陵高生とし

強要する応援団にあつてはまかり通る。

昔の釧中応援団を全く知らない四年生以下の下級生には、その横暴ぶりが許せない。

前年のストも心の中にくすぶつたままにある。菊地常男、岡島広先輩の訓告もきかずにストを打ち、たった一日で中止した身勝手さに対する腹立ちもある。

民主主義の多数決では数の上から多い下級生が、断然に強いはずであった。

その数の多い正義を振りかざして四年生が三、二、一年生に対し

て傲をとばした。応援団リーダーらの反省を求め、

「放課後の応援団練習をサポートジュスベシ」と。

その日の放課後の屋内体育館には一人の下級生も集まらない。スタージュ首謀の四年生数名が教室に居残っているだけだった。

たまたまその日、最上級生らも同級生リーダーの横暴を見かねて忠告した。

リーダー達も、これを受けいれて、

「今日から暴力を慎しみ、民主的な練習にしよう」と心あらためたときであった。

下級生の全員サポートジュに憤る木内清治ら五年生。

最上級生のメンツにかけても、四年生をへこましてやる、とサボ首謀者らと討論する。

暴力こそ使わないが、四年間、一期先輩として絶えず抑えつけてきた権力と体力に優位にある五年生が、威圧的に机を叩き、ならみつけて暴言を吐く池端清一、小林謙一ら熱血漢。

四年生も三、二、一年生ら多数のバックに、傲をとばしたメンツにかけても負けてはおられない。

双方が激論をたたかわせ、情熱のほとばしる討論は夜遅くまでつづけられた。

だが、最後に団長らはこれまでの反省と、民主的な運営を約束し、翌日からの練習協力を四年生らは誓って、妥結をみたのである。

二十一年六月三十日、戦後初の市民大運動会に釧中応援団は二等賞となる。

全生徒が丸太を、教壇を運んでヤグラを組んだ。熱情あふれる応援は団体第一と市民に思われたが、昔ながらの乱暴な動作、服装が一部からひんしゅくをかっただけであつた。

次の年の応援団結成には気を使う。最上級生の一番の関心は団長選出にある。

釧中の伝統的な慣習として、学業成績、スポーツともに秀れた紅顔の美少年が選出されていた。

前年の佐野賢治がそうであつた。引統いての後任にはデッシャこと河崎弘、と自他ともに目される適任者であり、当然に彼は立候補した。下級生も彼を団長にふさわしい男と思つている。

だが、民主主義の多数決を田中正巳先生に教わつたばかりの五年生は、過去と同じことをせずに、多数決を悪利用してみる悪戯気を起こした。

角力部のバリキこと佐藤博をカツギあげて、自分らの力で牛耳れるものか、試してみる。各学年の

クラスをまわり選挙運動をする。下級生の、なにがなんだか分からぬうちに佐藤団長が決定、副団長に多湖省三、長谷川米一ときめてしまった。リーダーには室田浩志、奥田達也、河崎弘、村田憲治ら三十二回生と北林麟平ら三十三回生五名もきめた。

選出方法や下級生参加は民主的だが、たぶん五年生級長のわがままに牛耳られている。それは市民大運動会の当日、乱れとなつてあらわれる。

全生徒で教壇を運び、丸太を借りてヤグラを組み、前年以上の釧中応援団席を作つた。

服装は、前年にこりてというわけでもないが白Yシャツに白か黒のズボン、制服をきちんとつける。当日は膚寒い天気ながら、市民人口六万の半数近くが見物する盛會さ。団長、リーダーは見物人を意識して張り切るが、気合をかける下級生には力がはいらない。

浮き上がってしまった団長ら、カツギあげられた不満も出て、応援早々に退場してしまう。自分らのまいた種でもあり、室田ら級長達が代わって指揮をとる。大人気なさや重大事を反省して戻つた団長らと一時シューンとした釧中生はそれが逆に薬となつて全員整然と熱心にやり団体一位となつた。

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

当番期紹介

湖陵 八・十八・二十八期



高島 正和
(湖陵18期)

一九九〇年……もうあれから十年も！の思いです。

十年前、先輩に呼ばれて何も分からぬままにお手伝いをさせていただきました。

「福引の賞品を貰ってこい」とリストを渡され、当日まで賞品集めに奔走していた時から早十年。今度は私達が主役となってしまいました。

押しも押されぬ四十代？さー命令だけを出せば良いと思ったのも一瞬のこと、命令を出すには出すだけの企画がなくては……！

私達は昭和二十二年生まれの十八期、生まれたときは終戦の混乱の極、人口減少に答えるべく粗製乱造された私達。

日本の人口ピラミッドは私達を頂点とする玉ねぎ型。どんどん玉ねぎの膨らみが上に上がって行く。

おまえ達は入学も結婚も更には、墓場に入るまで競争だ、と言われて育てられ、教育産業の隆盛を誘発し、全共闘の旗に憧れ政治の時代を真剣に過ごし、高度成長の良き時代は先輩に譲り、オイルショックと同時に世間を知り鬼將軍たちにしごかれて不惑の四十代に成ってみれば、団塊の世代の処分問題と週刊誌の話題を賑わし、今や「おじさん属」の仲間入り、そんな私達、だけど、今の日本経済を支えて入るのは私達。

さて、今回の同窓会の企画は、とにかく幹事候補大集合をかけた。友を見たら敵と思えと教えられ、母は刃を握らせて人を殺せと教えるしも、この際同窓の誼みで生存競争を休戦し、仲良く旧交を暖めようと思いの大転換を決意して、こ

の機会に同期会も結成しよう、今年を迎えました。幹事は義務と、集まった仲間たち、ちょうど卒業のときが舟木一夫の「高校三年生」の世代の私達。二十数年振りに集まってみれば、白髪あり、はげあり昔日の好青年はいずこと、ほうほうの体で名前と顔を一致させる苦労苦労。しかし思い出せば昔懐かしく「赤い夕日が校舎を染めた」思い出を語り明かす夜となりました。

「そうか同窓会とはこれなんだ！義務であった幹事が、突如なんとかして成功させようという思いに変わり、議論は同窓会の企画について真剣な討論会となりました。我々の世代の同窓会とは……：なかなかでない結論に、我々十八期読み直せば「一かばちかの十八期」とやけになりながらも、とにかく若い世代も楽しめて、先輩諸氏にも満足して戴いてと、欲張り十八期の企画を今日はたっぷりお楽しみ下さい。

まず私達の故郷への熱き思いと、

湖陵を愛する胸の高鳴りを演出致します。この素晴らしい道東の自然の恵みと、人々の営みとその中で我が母校の素晴らしき思い出を十分に堪能下さい。

さてアトラクションは六〇年代アメリカングラフイティー五〇代四〇代の皆様の青春をここに懐かしのロックンロールで再現します。メインイベントは一かばちかの「大じゃんけん大会」です。キャンブルの楽しみをカジノのつもりでお楽しみを！

遠くからお越しの方々には二十八期が特設のお土産コーナーを用意致しました。ご利用下さい。今年のテレホンカードはいつまでもお手元に残しておいて戴きたく、記念品風に致しました。是非お求め下さい。

一かばちかの十八期の企画、ご堪能戴けましたでしょうか。

湖陵という名が単なる学校の名称ではなく、私達の青春の思い出の中にいつまでも生き続ける象徴であり続ける限り同窓会は不滅です。来年の幹事に不滅の同窓会幹事を引き継いで、嘆きから始まった私の雑文もそろそろ終わりです。ありがとうございました。

御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(創中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備



道立水産試験場

沼館 靖 展

平成二年三月卒業四十二期

湖陵高校を卒業して早くも半年近く経ちました。今、僕は公務員になって働いているわけですが、卒業アルバムなどをひっぱり出して昔を思い返せば、やっぱり学生時代が一番良かったと思います。僕の高校生活を振り返ると、はつきり言って勉強はあまりしませんでした。僕にとって勉強は自分の夢を叶えるのに、そんなに重要なものではなかったからです。現に今、仕事をしている中で高校時代にやった勉強は、あまり役に立ってはいません。けど、今の社会は

残念なことに学歴がものをいう時代であり、そう簡単には変えられないものではありません。だから僕は、ある程度自分の実力次第で社会に貢献できる公務員になろうと思ったのです。その代わり湖陵高校で、僕は人間にとって最も大切なことを学ぶことができました。それは、人間関係です。学生時代僕にはすばらしい友達がたくさんいました。苦しい時や、悲しい時は、真剣になって相談のつてくれ、また、楽しい時には一緒にな

助けあい、支えあって生きていくことがどれだけ大切なことか学ぶことができました。これは、僕にとつて一生の宝物であり、心の支えでもあります。こんなすばらしいことを授けてくれた友達や先生たち、そして湖陵高校には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に

日本銀行に入行して早くも三ヶ月が経ち、幾らか仕事や職場の雰囲気にも慣れ、充実した毎日を送っております。この三ヶ月という期間は、無我夢中で生活してきた為か、あつという間に過ぎてしまいました。でもこの短い期間で多くの事を学び取り、自分自身にか



社会人『一年生』

日銀釧路支店

高間 里 香

平成二年三月卒業四十二期

どうもありがとうございました。最後に、これから卒業する後輩たちに、お願いがあります。それは、自分の夢に向かつてまっすぐ進んでほしいということです。湖陵は進学する人が多いですが、遊びたいからとか、みんなが大学に行くからという理由で、進学してほしくないです。僕は働いてみて、お金をもらうということがどれだけ大変なことかわかりました。親が一生懸命働いてもらったお金が無駄にならないように、自分の進むべき道をしつかりと見定めて歩いていってください。

なりプラスになりました。私の仕事では、銀行券や貨幣といった現物を取り扱っている為、毎日緊張して仕事に臨まなければなりません。そして、これはどの仕事でも言える事ですが、自分の行動に常に責任を持たなくてはなりません。いずれも当たり前的事

ではありますが、とても大切な事なので、毎日心掛けて生活してほしいです。また、仕事というのは、正確にかつ迅速にしなければなりません。新人だからわからない、という甘えを私自身、許したくないので、わからなければ、わかるまで一生懸命勉強し、そういつた甘えを出さないようにしています。また、職場生活においても、プライベートな面においても、自分の長所をどんどん引き出す必要があります。私の場合、長所といっても明るくて元気なところくらいしかありませんが、自分の長所を引き出すことにより、自信がつき、仕事にも生かされる部分必ず出てくると思うので、いつも笑顔をやささず、明るく元気に生活しています。

そして、社会人になって一番感じた事は、湖陵高校の伝統です。実際、湖陵高校を卒業なさった上司や先輩が何人かいて、「湖陵会」という会も結成されており、先輩からも「湖陵を卒業したからには湖陵の為に一生懸命頑張らなくてはいけないんだよ」と言われました。その通りだと思いました。自分の為だけではなく、就職を希望している後輩の皆さんや、湖陵の名誉の為に一生懸命頑張っていると思うっております。

釧路市幣舞町2番2号

株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井 祥 朔 (湖陵18期)

電話 41-4798番

御卒業・御入学の
晴れの日を
歴史の1ページに...

事務局だより

同窓会会員の皆様におかれましては、常日頃から同窓会の運営に際しご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。月日の経つのは早いもので、平成元年度、釧中・釧路湖陵同窓会総会内容を第二十一回のくまざさの中でご報告申し上げたのがつい先頃のような気が致します。

平成二年度の総会は、湖陵八期・十八期・二十八期の皆様が当番幹事でございます。平成二年四月十九日に第一回目の三期合同幹事会を開催し、それぞれがお互いの期の分野をしつかりと確認し合せて出発致しました。その後七月九日に、釧中・釧路湖陵合同幹事会を開催し、当番幹事期から総会並びに懇親会の件についてアイデアが盛りたくさん提案され、諸先輩始め各期の代志幹事の皆様に心良くご承認いただいたところでございます。当番幹事期の皆様には大変なご苦労をおかけしますが、伝統のこの総会並びに懇親会のため、

おおいに最後の力をふりしぼり、この総会を盛り上げて頂きたいと思っております。

さて、近年は各地方支部での同窓会が非常に活発に活動し、親会としては非常に喜ばしく感じていると同時に、大変心強く思っているところでもございます。母校の校舎の移転改築も順調に進み、この九月上旬には完成すると伺っております。二、三日前に校舎の全景を見せていただきましたが、実に素晴らしい、湖陵が丘に堂々とそびえ立つ全道一と言っても決して過言ではない校舎が完成致しました。平成三年秋には、開校八十年並びに校舎改築記念式典を催すことになり、すでに協賛会並びに実行委員会が設置され、活動を開始しているところでございます。同窓会の皆様には、何かとお世話になることと思われまますのでよろしくお願い致します。また、その後は我々同窓生の念願であります同窓会館建設が間近

にせまっております。今後、会員の皆様には絶大なご支援、ご協力を賜らなければなりません。重ね重ねのお願いで誠に恐縮に存じますがどうかよろしくお願ひ申し上げます。最後になりましたが、同窓会会員の皆様のご健康と今後のご活躍をご祈念申し上げます事務局からのたよりとさせていただきます。



編集後記

誰しもが待ち望んでいた我等の湖陵高等学校校舎が、緑ヶ岡に完成しました。

今年の八月いっぱい、古い校舎ともお別れということになりました。

お世話になった現校舎で、お別れパーティーが予定されているとも聞いています。是非、お誘い合わせの上、ご参

加いただき、古い校舎に感謝し、記念のページを飾りたいものです。

いろいろなイベントが用意されているようです。当日、思い出の品々のオークション等も開催予定です。

また、「くまざさ」も、いよいよ次号からは、新しい陣容を揃えて編集発行にあたります。

是非、ご期待いただきたいと存じます。

さらに、明年は湖陵高等学校開校八十周年にあたり、盛大にそのお祝いを予定しております。全国各地で活躍中の同窓生の方々も、駆けつけてくださること存じます。

最後になりましたが、お忙しい中、ご寄稿いただきました方々に心より御礼申し上げます。

(吉井記)

編集委員

- | | |
|-------|-------|
| 長内 宏 | 遠藤 隆吉 |
| 関口 政司 | 上岡 信明 |
| 吉井 正 | 平野清次郎 |
| 石川 和男 | |



3-7-325 (5) D6942

ゴルフショップ 三 幸

新橋大通 5 - 1

22-5027

代表 宮本英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——